

テーマ 幼小中連携教育を地域とともに、そして街づくり

目標 ○地域および学校応援との連携・協働の充実 ○組織の人材育成
○広報のさらなる充実 ○学校園支援事業の充実 ○自主開催事業の取組

今年度の取組紹介

富雄第三小中学校の海外交流校から職員9名が来校するにあたり、「夏休み子どもプロジェクト」では、子どもたちがボランティアさんから古布を使った小物作りを教わり、作った物を来校された方々にプレゼントすることができました。また、連続研修の第1回目では、交流校の方々の来校時に地域として何ができるかをグループワークで話し合い、第2回目は、歓迎事業に関わった様々な立場の方を招き、パネルディスカッションとグループワークで歓迎事業の振りかえりを行うことができました。



小物づくりの様子

職員来校時の歓迎事業は、自治連合会と共催し歓迎会を開き、地域の子どもたちのダンスや、大人の琴演奏などが披露されるなどして、盛大に会を盛り上げることができました。また、地域としての歓迎事業を行うことで、来校者と学校だけでなく、地域住民も交流を深めることができました。「夏休み子どもプロジェクト」「連続研修」「歓迎事業」それぞれの事業は、これまでにない取組でしたが、「歓迎事業」を柱に3つの取組をうまく連動させることができたことで、地域住民・学校園・子どもたちの絆を繋ぐよい機会となり、今年度のテーマに沿った事業内容を行うことができました。



連続研修

今年度のまとめ

富雄第三中学校区としての活動3年目を終え、コーディネーターと学校園の連携がうまくとれるようになり、組織としての体制も整いつつあります。しかし、地域住民の本事業に対する認知度は、まだまだ低いように思えますが、地域で活動する多くの団体と交流の機会を持ち、お互いの活動に参加協力し合うことで、地域教育協議会への理解と活動への参加希望者が増えてきています。学校園の支援事業もそれぞれ定期的な活動ができるようになり、ボランティアの方と子どもたちがふれあう場が多くなることで、子どもたちから積極的に挨拶が交わされるようになってきました。そして、ボランティアの方々からも「子どもたちとふれあうことで元気がもらえる」「私にできることがあれば、少しでも役に立ちたい」といった声を多くもらっています。

来年度に向けて

継続事業となる『夏休み子どもプロジェクト』『交流校来校時歓迎事業』は、今年度の課題をもとに計画をじっくりと練り、多くの人材に関わってもらいながら、準備を進めていきます。中でも生徒会の子どもたちにも協力を依頼し、9月に来校する交流校の生徒さんたちの歓迎の場を盛り上げていきたいと考えます。そのためにもコーディネーターを増員すると同時に、地域の各団体との交流の場を多く作り、協力を依頼するとともに、こちらからも積極的に地域行事などに参加していきます。

テーマ

地域の教育力を生かした小中一貫教育の推進

目標

小中全学年（1～9年生）そろった今年度は、学校と地域が協働して小中一貫教育の基盤を整え充実させるのに、力を入れる。また、地域の方々の協力を得て、小中一貫教育の推進を図る。

今年度の取組紹介

オーストラリア キャンベラ市のハリソン校から職員9名が来校することが決まり、学校と地域が協力し取り組みました。ホームステイを希望され、地域・保護者に協力を得ました。また地域から通訳を行ってくれる方も見つかりました。1日半、学校で過ごされる中で参観や授業に加わって英語でオーストラリアを紹介していただいたりもしました。また、音楽では琴の弾き方を8年生がハリソンの先生に教えている姿も見られました。夜には、地域を挙げての歓迎会を催して下さったり、地域の方の協力で本格的な茶室での茶道体験も行われました。

また、中学生と地域・保護者との協働による校内及び学校周辺の環境整備活動を行いました。読書活動推進事業にも力を入れ、ボランティアの方に図書情報室開室のお手伝いや地域から寄贈された図書の書名等のデータ入力をしてもらい、開架することができました。家庭科授業の補助もしていただきました。



ハリソン職員と交流



家庭科ボランティア

今年度のまとめ

3年前に中学校区として独立するとともに地域教育協議会も立ち上がり、学校と地域との話し合いの場も定例化し、地域と学校との結びつきも強くなりました。「期待する子ども像」を共有し、小中一貫教育推進の大きな助けとなりました。今では、中学校の継続的な事業として、環境整備、読書活動推進、学習、部活巡回見守り、音楽教育支援事業等があげられます。また、ハリソン校との交流では、来年度の生徒交流に向けて、その基盤をつくることができました。

来年度に向けて

ボランティア活動に気軽に参加していただけるように広報活動に力を入れ、地域コーディネーターと学校コーディネーターの連携を深めて、小中一貫教育が根付く学校・地域づくりを進めます。

コーディネーターを中心に地域の方との交流を深め、子どもの教育活動の充実を図ります。学校もボランティアの方も「良かった」と思えるように工夫配慮し、各種の事業に取り組みます。特に、9月にハリソン校から15名ほどの生徒を3日間迎えるので創意工夫して取り組むとともに、防災力強化プロジェクト校として、地域と協力し、防災に取り組みます。また、学校の美化活動を強化します。

テーマ

地域の教育力を生かした小中一貫教育の推進

目標

小中全学年（1～9年生）そろった今年度は、学校と地域が協働して小中一貫教育の基盤を整え充実させるのに、力を入れる。また、地域の方々の協力を得て、小中一貫教育の推進を図る。

今年度の取組紹介

オーストラリア キャンベラ市のハリソン校から職員9名が来校することが決まり、学校と地域が協力し取り組みました。ホームステイを希望され、地域・保護者に協力を得ました。また地域から通訳を行ってくれる方も見つかりました。1日半、学校で過ごされる中で参観や授業に加わって英語でオーストラリアを紹介していただいたりもしました。また、英会話科ではハリソン校の校長自ら授業を行ったり、テレビ会議システムを使って、ハリソン校の児童生徒と交流したりして、有意義に過ごすことができました。夜には、地域を挙げての歓迎会を催していただき、地域の方の協力で本格的な茶室での茶道体験も行われました。また、読書活動推進事業にも力を入れ、ボランティアの方に図書室開室のお手伝いや図書の整理等をしてもらいました。裁縫や調理実習の際に5・6年生の家庭科授業の補助もしていただきました。



ハリソン職員と交流



家庭科ボランティア

今年度のまとめ

3年前に中学校区として独立するとともに地域教育協議会も立ち上がり、学校と地域との話し合いの場も定例化し、地域と学校との結びつきも強くなりました。「期待する子ども像」を共有し、小中一貫教育推進の大きな助けとなりました。今では、小学校の継続的な事業として、奈良西養護学校との交流、近畿大学との連携、世界遺産学習、平和学習、福祉体験、環境整備、読書活動推進等があげられます。また、ハリソン校との交流では、来年度の生徒交流に向けて、その基盤をつくることができました。

来年度に向けて

ボランティア活動に気軽に参加していただけるように広報活動に力を入れ、地域コーディネーターと学校コーディネーターの連携を深めて、小中一貫教育が根付く学校・地域づくりを進めます。

コーディネーターを中心に地域の方との交流を深め、子どもの教育活動の充実を図ります。学校もボランティアの方も「良かった」と思えるように工夫配慮し、各種の事業に取り組みます。特に、9月にハリソン校から15名ほどの生徒を3日間迎えるので創意工夫して取り組むとともに、防災力強化プロジェクト校として、地域と協力し、防災に取り組みます。また、学校の美化活動を強化します。

テーマ

地域の教育力を活かした遊びの充実

目標

様々な人とのかかわりやつながりを深め幼児が楽しく遊べる環境の整備

今年度の取組紹介

運動会 今年度は耐震工事のため園庭が使用できず、小中学校に体育館を借りて運動会を行いました。当日、予行、日々の練習と体育館に行くたびに小中学生に声をかけてもらい、子どもたちが学校に親しみを感じました。また、「わくわくタイム」で地域ボランティアの方々の力を借りて、跳び箱・マット・体操などの練習をした日頃の保育の成果を運動会で、地域の方や保護者に見てもらうことができました。

また演技中は近大吹奏楽同好会による生演奏が行われ、様々な人とのかかわりやつながりを深めることができ、楽しい運動会になりました。



文楽であ・そ・ぼ 古典文楽を身近に感じ、子どもたちの心に残る体験にできればと、大学の先生のご指導で、地域ボランティアの方々や保護者の協力で文楽公演ができました。文楽の歴史や人形



の特徴などの説明を子どもたちにも分かりやすいようにクイズ形式で行ったり、文楽人形劇を見たりして楽しく参加できました。また、本物の文楽人形に触れる機会もあり、貴重な体験ができました。

わくわくタイム・お茶会などに協力を得て、地域の教育力を活かした活動が、継続して行われました。

今年度のまとめ

地域の方々や様々な方たちにご協力いただき、たくさんの行事や活動の中で、子どもたちは豊かな体験をすることができました。特に年間を通して行われているお茶会や、わくわくタイムでは、地域の教育力の高さを活かして、子どもたちの成長や思いを共に見守ることができました。

子どもたちも楽しみにその日を待ち、「わくわくの先生、きょうは跳び箱したい。」という子どもの声や「家庭でも跳び箱買ってと言われました。」という保護者の声が聞かれました。お茶会は、親子でお茶会の機会をもち、保護者も四季折々の話など楽しみにしています。

来年度に向けて

地域の方や保護者の協力により、子どもたちはいろいろな体験をしています。今後もこのつながりを大切に、共に子どもたちを育てていきたいと思えます。今年度は耐震工事のため、4か月間、園庭が半分しか使用できず、のびのびと体を動かす遊びに制限がありました。そこで来年度は、自分から意欲的に体を動かすことが楽しくなるような環境を整え、体力づくりをしていきたいと考えます。また、園舎は工事をした新しい部分と、以前からの老朽化した部分の差が目立つので、ペンキを塗ったり、花を栽培したり、環境整備もしていきます。